令和５年度　横浜市学力・学習状況調査結果についての報告と分析

令和５年４月に行われました2～６年生対象の横浜市学力･学習状況調査の結果についてお知らせいたします。今回の結果を踏まえ，今後の教育活動がより充実したものとなるよう取り組んでまいります。

【教科に関する調査結果】　正答率（%）

		国語	社会	算数	理科	外国語
2年	中川西小学校	57.7		71.0		
	横浜市（平均）	54.9		64.4		
3年	中川西小学校	66.3		72.8		
	横浜市（平均）	65.0		70.8		
4年	中川西小学校	64.1	72.7	74.5	77.7	
	横浜市（平均）	59.8	74.2	72.0	75.9	
5年	中川西小学校	67.2	64.8	74.7	66.3	
	横浜市（平均）	63.9	65.9	73.7	64.5	
6年	中川西小学校	64.2	74.9	67.1	65.8	89.8
	横浜市（平均）	60.8	68.8	61.7	64.5	87.0

○国語・算数・社会・理科・外国語の結果と分析○

国語・社会・算数・理科・外国語ともに，全体的にほぼ全ての教科で横浜市の正答率より上回るか同等程度です。各学年で見てみると，それぞれに特徴が見受けられます。

２年生では，国語・算数ともに領域的に見ても、市の平均をバランスよく上回っています。

３年生では，算数は領域的に見て市の平均を上回っています。国語は，説明的な文章の領域が市の平均を下回っています。

４年生では、算数・国語・理科ともに領域的に見ても市の平均をバランスよく上回っています。社会では、位置や空間的な広がりの領域が市の平均を少し下回りました。知識は勿論、考える力も育ってきています。

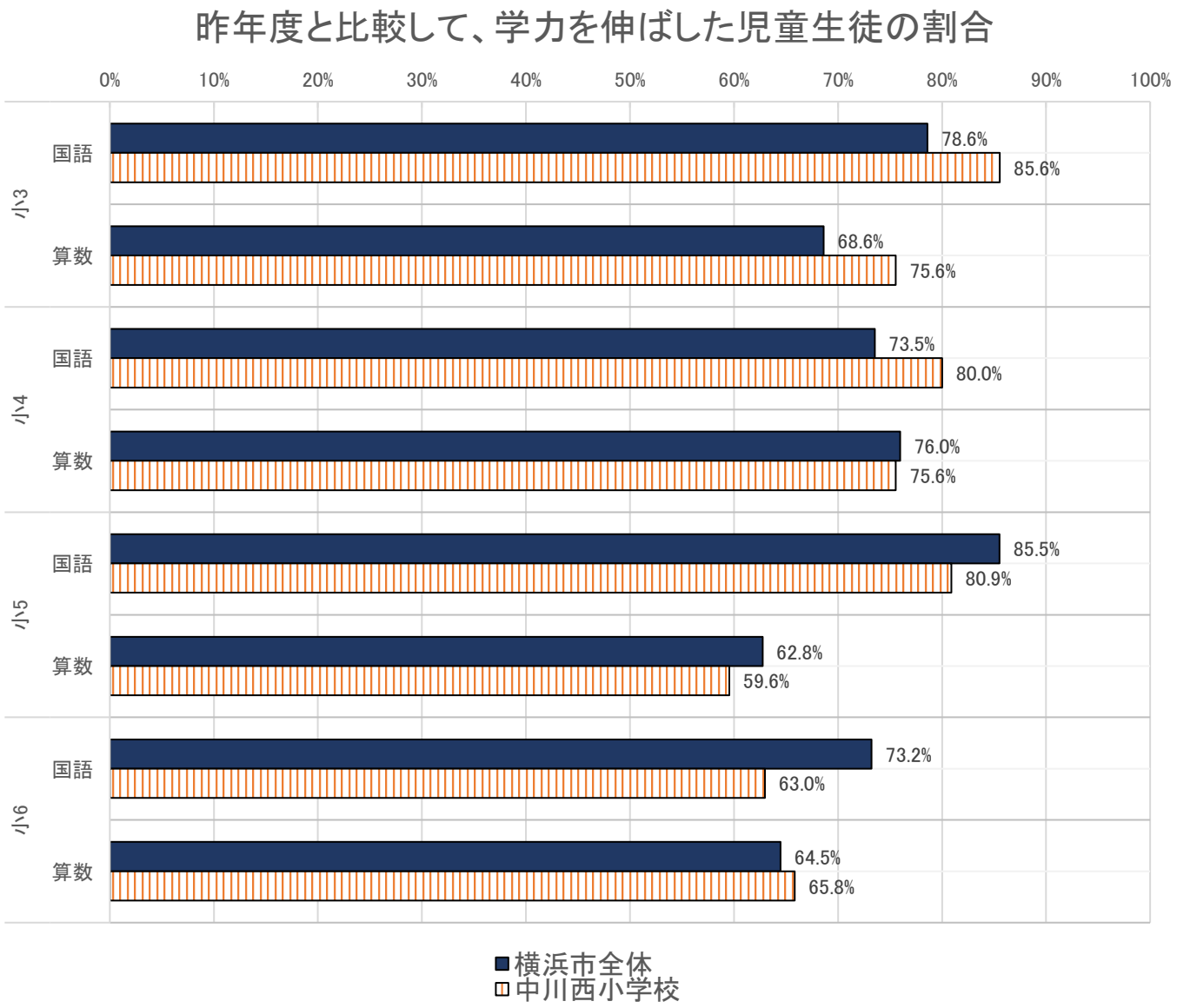
５年生では，社会科以外の教科で市の平均を上回りました。特に国語は大きく上回っています。社会科では、「思考・判断・表現」の観点で少し課題が見られました。より考える力も育てる必要性があります。

６年生では、すべての教科で市の平均を上回りました。特に社会は大きく上回っています。社会科も観点別で見ると、「知識・技能」より、「思考・判断・表現」の方がよい結果となり、考える力が育っていました。

○横浜市学力・学習状況調査の「学力レベル」と「各学年の伸び」について○

今年度より IRT（項目反応理論）という理論を取り入れた新しい形の調査になりました。この理論により、学年が上がり問題が変わっても、結果を比較することができ、**一人ひとりの児童の「学力レベル」が伸びているかを確認**することができるようになりました。

学力レベル…「学力」とは、学習の理解や習熟の状況のことで、「学力レベル」とは、その「学力」を 42 の段階で示したもので、**「学力レベル」の数値が上がることを「伸び」**としています。なお、「学力レベル」は児童の学ぶ力の全てを表すものではありません。

中学校までの９年間を通じて、一人ひとりの「伸び」を見ることで、ご家庭で学習の状況を把握して、努力やつまずきを見付けることができます。学校も学習状況の変化を知ることで、学習支援につなげます。

※下記の通り、本校の学力を伸ばした児童の割合をまとめました。
（２年生は１年時に学力・学習状況調査を受けていないので、ここには載りません。）
全体的に見て、３・４年生は前年と比べて学力を伸ばした割合が市の平均を上回っています。
５・６年生など高学年になるにつれて、前年度からの伸びの割合が市の平均を下回る傾向が見られました。